

# 全国歴史教育研究協議会

## 第四二回研究大会（神奈川大会）報告

大会委員長 川 島 敏 郎

期 日：二〇〇一年七月三〇日（月）、八月一日（水）  
会 場：神奈川大学（横浜市神奈川区六角橋三二二七―一）

神奈川県での全国歴史教育研究協議会（全歴研）の研究大会開催は、一四年ぶり三回目である。本大会は基本テーマとして「二一世紀を拓く歴史教育―多文化共生の時代を生きる―」を掲げ、神奈川大学横浜キャンパスを会場として開催された。全国からの大会参加者は、小学校―高校教員、教育・出版関係者を含め、約三五〇名であった。

新世紀を迎えた現在、情報教育の導入、総合的な学習の時間のあり方、完全学校週五日制などを巡り、学校教育は大きな岐路に直面しているといっても過言ではない。このような状況下、本大会の分科会は従来どおり五分科会を設定したが、幾つかの分科会では従来の発表形態の枠組みを大きく変更した。

第一分科会は「総合的な学習に向けて」と題して、小・中・高三課程からの提案が行われた。第二分科会は「地域に『学ぶ』―小学校・中学校の教育実践から―」を掲げ、地域資料の教材化の提案が行われた。翌日には、「総合的な学習の光と陰」と題して、パネルディスカッションが行われ、提案者と大会参加者との間で活発な意見交換が展開された。第三分科会（日本史分野）は「地域学習における多文化共生―西洋文明との出会いを介して―」を掲げ、様々な視

点からの日欧文化交流が提案された。第四分科会（世界史分野）は「東と西をつなぐもの」と題して、ダイナミックな東西交渉史が開陳された。第五分科会（日本史・世界史合同）は「モノを切り口とした歴史学習」を掲げ、日本史・世界史の枠組みを取り払った歴史の考察に対して、多くの参加者から注目を浴びた。地域資料の掘り起こしやその活用、多面的な指導方法の提案を介して、各分科会においては積極的な討論が展開できたのではないかと自負している。

記念講演会では、世界史学界の泰斗でいらつしやる榊山紘一先生（国立西洋美術館長、前東京大学大学院教授）をお迎えして、「歴史家たちの二〇世紀」という演題のご講演をいただいた。日本国内は勿論のこと、東洋・欧米の歴史を考察し、動かし難い歴史家たちの生き様が次々と紹介され、まさに地球大規模の示唆に富む貴重なお話しを伺うことができ、一同大いに感銘を受けた。

史跡見学は、Aコース（鎌倉一日）「鎌倉時代の興亡を歩く―最新の発掘調査をもとに―」、Bコース（横浜一日）「バスで巡る横浜―中世と近代に栄えた二つの港を訪ねて―」、Cコース（横浜夜間）「ヨコハマ ライトアップ 近代建築」の三コースを設定した。落ち着いた雰囲気と漂わせた古都鎌倉と、新・旧の文化を織り交ぜた異国情緒豊かな近代都市横浜を十分満喫していただけたものと思う。特にCコースの夜間史跡見学は、全歴研の史跡見学では初めての試みで、参加者の方々から好評を博した。

会場提供をいただいた神奈川大学関係者各位、格段のご理解とご協力をいただいた神奈川県教育委員会、横浜市・川崎市・横須賀市・茅ヶ崎市教育委員会関係者、並びに大会運営にご尽力いただいた歴史分科会役員各位に、この場を借りて深謝申し上げます。